

芸 振

も く じ

芸術文化振興会議	
事務局長に就任して………	1
第27回大分県芸術祭	
開幕行事のねらい………	2
中幕行事について………	3
閉幕行事について………	4
今後の芸振の取り組みについて…	5～6
県洋舞踊界の歩み………	7
事務局だより………	8



大分県芸術文化振興会議

■発行人：仲町謙吉 ■編集人：秋葉正嗣

(題字 堤皖山)

No. 83

平成3.9



芸術文化振興会議 事務局長に就任して

大分県芸術文化振興会議
事務局長

秋 葉 正 嗣



花 崎 宏 志
(中津市立今津中学校長)

昨今、マスコミを賑わしているソ連共産党の崩壊から連邦制の解体に至る一連の過程、あるいは少し古くなるが、ベルリンの壁の崩壊によるドイツの統一等に象徴されるソ連、東欧の民主化の動きは、まさに時代の大きな潮流であり、これを後戻りさせることはできないものと思われる。これらの動きの根底には、人々の人間らしく生きたいという本能的な欲求があるのである。

もちろん、これらの国々の経済状況が厳しいのは確かであるが、単に生物として生きる、生命を維持するというだけであれば、経済的な豊かさだけで足りよう。しかし「人はパンのみにて生きるものにあらず」である。人が人として人間らしく生きるためには、究極的には生きがい、あるいはゆとり、うるおい、やすらぎ、くつろぎ等を含め心の豊かさが必要である。東欧諸国の人々もそれを欲しているのだと考えたい。

振り返って国内を眺めてみると、近年「文化の時代」が言われて久しいが、これは、空前の経済的繁栄を背景として、物質的な豊かさだけでなく、「文化」こそがうるおいのある心豊かな生活の実現に不可欠のものであることに人々が気づき始めたことの現れではなからうか。まさに「衣食足りて礼節を知る」ということであろう。

また、諸外国には、我が国は経済的利益ばかり追求する「顔」の見えない国であるとの批判は根強く、経済摩擦が文化摩擦にまで及んでいる状況なしとしない。過去、経済的に豊かな国々は、あまねく世界の文化の発展にも多大の貢献をしてきた。今ほど我が国に、「顔」の見える国として文化面での国際貢献が求められている時代はないと言ってよい。

このように、来たるべき21世紀は「文化の振興」が国内的にも国際的にも時代のキーワード、重要な政策課題になってくると言えよう。

さて、このような状況にかんがみると、本県の文化の振興についていかに考えるべきであろうか。本芸術文化振興会議が、本県芸術文化の振興に果たしてきた役割には極めて大きなものがあるが、今後さらなる振興、発展のために次の2点について考えておきたい。

1つは、優れた芸術創造活動の振興とその普及である。言い換えれば、芸術活動のピークを伸ばすことと、すそ野の拡大の調和をいかに図っていくかということである。最近では、優れた芸術を単に鑑賞するだけでなく、自ら積極的、主体的に芸術活動を実践する人々が増えてきている。まさに、生涯学習への取り組みの増大である。今後、これらの人々の積極的な参加を促がし、本芸術文化振興会議の充実強化を図ることにより、芸術文化活動のピークを高めるとともに、優れた芸術文化の観賞機会の拡充によりすそ野の拡大に努めてまいりたい。

2点目は、民間との連携協力の強化である。国においては平成元年度末に、民間企業等との協力により芸術文化の振興を図るため、600億円規模の芸術文化振興基金を創設したが、本県においてはこれより早く、昭和60年度に芸術文化基金による芸術文化活動への助成が始まっている。

昨今、企業メセナ等が言われる中、本県芸術文化基金にも民間企業等からの資金拠出を仰ぎ、その規模を拡大することで、より一層の助成の充実を図るべき時機に来ていると思う。

以上のほかにも、本県文化振興のために解決すべき課題はあろうが、ともあれ機は熟している。今後とも「文化先進県」「文化立県」への飛躍を目指して微力ながらも全力を尽したいと考えている。

第27回大分県芸術祭

開幕行事のねらい

コーラスの花束

エリカ・フラウエンコール 宮下美汐

大分県芸術祭が年々充実し、県民文化の高揚発展に大きく貢献していることは、喜ばしいことである。はからずも、本年の開幕行事にエリカフラウエンコールが演奏させていただくことになり、光栄に思うと同時に責任の重さに身の引きしめる思いを感じている。

エリカフラウエンコールは、20年前小学校のPTAコーラスとして誕生し、現指揮者の飯倉貞子先生の熱心な指導を受けながら広く県下から団員が集まるようになり成長をしてきた女声合唱団である。

コーラスの楽しみは言うまでもなく美しいハーモニーを目指し、皆で作りにあげていくところにあるが、個々の発声などの技術のみがくことだけでなく、歌の心を表現するために平素から豊かな感性のみがくことも大切なこととして励まし合っている。家事の合間に集まる練習日のひとときは、楽しさの中に緊張感と充実感のあるひとときになっている。

2年毎に行なっている独自の演奏会をはじめ、県内の合唱祭や各種のイベント、おかあさんコーラスの九州大会や全国大会等、毎年舞台に立つ機会が増えてきたことは、エリカの実力を伸ばす機会でもある。人前に立つ緊張感、そして少しでも良いコーラスをと常に高い水準をねらい全力投球を惜しまないのも主婦の持つパワーであろうか。

今回の演奏は、日本の現代作曲家による「秋来ぬと」を琴の伴奏で歌うのをはじめとし、障害を持った子どもたちの詩に曲をつけた「空とぶうさぎ」、なつかしい童謡を集めた「春の抄」「思い出のポピュラーソング」など4つのステージであるが、1人でも多くの人に楽しんで聞いてもらい感動とともに味わってもらうため、全力を傾注したい。

特に「秋来ぬと」は、日本の古い歌謡集「梁塵秘抄」から恋の歌を元に作曲されたもので、短い言葉の奥に潜んでいる激しくも哀しい恋の心を感じていただけるように歌えたら悔いなしと思っている。

また、ステージ毎に歌のイメージに合わせ工夫した手作りの衣裳も見てもらいたい。視覚も聴覚と同じようにして歌の世界に浸ってもらいたいと願っている。

まだまだ未熟なエリカ、本物のコーラスを目指してこれからも努力をつづけたい。

第27回大分県芸術祭のすべての成功を心から祈念する次第である。



中幕行事について

大分・ソ連友好バレエ公演

大分県洋舞踊協会長 杉原昌子

文化の秋、芸術の秋のさなか、第27回大分県芸術祭主催の中幕行事で、第3回生涯学習フェスティバル協賛、第6回国民文化祭協賛として、大分県洋舞踊協会30周年記念公演を11月4日午後6時30分より開くことになった。

平松県知事を始め、多くの方々の御協力をいただき、この公演ももう間もなく迎えることが出来ることを思うと、感謝にたえない。

今回の公演に心強いお力添えをいただいたエフゲニー・バルーキン教授（ソ連国立劇場芸術大学バレエ学部長）のお世話により、またイサエフ学長の御尽力により、同学卒業生の、今は世界にときめくクラシックバレエ界の名手の方々をお迎えしての公演開催となることができた。

大分市佐藤朱音バレエ研究所の、佐藤朱音先生が4年前にソ連に研修に出かけられ、バルーキン教授の御指導を受けたことから御縁が生れ、以来毎夏バルーキン教授を大分にお招きし、バレエの講習会を開いていただき、この間、平松知事もソ連まで出かけられ、友好の絆はいよいよ固く、ローカル外交も今後益々深まってゆくことだろう。

ここにそのひとつのあかしとして、日ソ文化交流バレエをスタートできたことは、誠に嬉しいことである。

大分県洋舞踊協会は微力ながら日々レッスンを積み重ね、公演の成功に向かって歩みつつある。

この公演がより香り高い芸術を目指すものであり、日ソ文化交流の基となることを願いつつ、地域文化おこしにいささかなりとも貢献できることを願うものである。



第27回大分県芸術祭

閉幕行事について

協奏曲の夕べ

グループUNO主宰 林 フミヨ

「グループUNO」は昭和47年、第1回の演奏会を6人で大分文化会館で催しました。

「UNO」というのはイタリア語の数字の「1」という意で出発しました。

当時は現在のように県内では文化活動も少なく、また会場も文化会館だけしかありませんでした。そういう状況の中で大分という地方都市での演奏会は数少ないものでしたので、私達は自分が日頃勉強していることを1年に1度聴いて戴き、ささやかながら地域文化の向上に貢献しようと計画しました。

「大分の地元で勉強し、演奏活動をしてる者なら誰でもどうぞ自由に参加してください」というのが私達の活動の主旨です。

定期演奏会を重ね、私達にとっては今年で20回目の記念すべき年を迎えました。これまでに出演者も70余名を数えることとなります。毎回、声楽、器楽、アンサンブルと内容も変化をつけ、少しずつではありますが技術的にも音楽的にも勉強し向上してきたつもりです。赤ん坊も生れて20年を過ぎると成人となるよう私達も演奏者として、わずかですが進歩し飛躍の年を迎えました。

20年の間、「UNO」の組織を維持することと、演奏者を育て継続させることは、大変大きな困難がありました。時代と共に、秀れた外国や中央からの演奏会を聴く機会が多くなった現在、県内の音楽ファンもレベルが上り、層も厚くなってきました。それだけに大分の演奏者も、もっともっと勉強し、質の高い演奏を提供できる人財が育って欲しいと願っています。そうした願いをこめて今回は、演奏者なら誰もが一度はやってみたいと憧れる「協奏曲」に挑戦することにしました。通常はピアノを伴奏に演奏する所を、オーケストラを伴奏に演奏することは演奏者にとっては夢のようなことなのです。指揮を加藤公康先生に依頼し、「グループUNOアンサンブル・オーケストラ」を編成しました。独奏者は声楽（ソプラノ、アルト、バリトン）、器楽（ピアノ、フルート）として、練習に励んでいる今頃です。



地方都市で地元だけの演奏者による協奏曲の演奏会は簡単に出来ることではありません。経済的な問題を始め、多くの問題がありますが、たくさんの先輩や仲間を支えられて、是非成功させたいと努力しています。

積み重ねと共に、これまで私達を応援し育てて下さった方々に、お礼の意味を含め中味の濃い演奏を聴いて戴きたいと思いますので、よろしく御声援をお願いします。

芸振役員紹介

今後の芸振の取り組みについて



理事
佐藤 真砂延

川柳文芸は、人づくりでもあると言われてきた。反面年齢構成を見ると新しい段階への開拓も必要であることを痛感する。

心を明るくする川柳、生き甲斐を生む川柳の普及に努力したいと思う。



理事
波多野 義孝

3月に開かれた、「地域デザイン会議'91大分」はたいへん意義深いものがあったが、これからも地域活性化に向けて、知的な汗を流す、そういうグループワークを推進したい。



理事
大崎 聡明

昭和39年結成以来、歳月の流れの早さに、唯々驚いています。芸術文化団体のまとめ役として、今後の発展にまじめに取り組んで行きたいと思えます。



理事
中野 幸和

本来、芸術文化活動は、個々の研鑽精進でより昇華に努めるものであろう。しかし芸振会議としての組織活動は、社会に対しより深甚な理解を求めるアピールが重要と考えている。



理事
糸永 信義

吹奏楽の世界ではコンクールだけに目先が向きそうだが、音楽を作る楽しみや多くの人に聴いて貰う喜びを味わうフェスティバル等にも機会を多くし共にスクラム組んで仲間を増やしたい。



理事
深田 光霊

芸術は、その広さと奥行、更に高さにおいて極限がないだけに、それぞれ所属する領域の特性を生かし、輪を広げることは容易ではない。やはり、鋭い先見性による秀れた指導力が要請される。吟詠剣詩舞道が、音楽性ゆたかな日本伝統の芸術との定義は、必然的に音楽の要素がきびしく求められ精進につながる。先年のフランスにおける吟詠歌舞伎の成功は、吟詠オペラと共に、展望に立つ大きな課題であろう。

(〒870 大分市田室町9-80 アーバン田室)



理事
木村 成敏

「文化は心の食物である」栄養のある食物をもっとたべる必要がある。あまりにも貧弱な行政に、総合的芸術文化団体である芸振会議がもっと積極的に要望を提起すべきである。



理事
宮 瀬 香多士

芸術文化活動の現状や、その時々々の課題を取り上げ、会員によるシンポジウムや講演会などを開くことも意義があるのではなかろうか。この意見は芸振会議発足のころの会で出たと思うが、現在に生かせるのでは……。



理事
内 田 悟

時、あたかも生涯学習の時代である。市民の芸術・文化に対する学習要求は、年と共に高まり、公民館等では、この種の教室・講座が花盛りである。

芸術・文化には、幅があり深みもある。これら個々の要求には充分そいかねるが、要は芸術・文化を志す人々の拡大にある。そのために果たす行政の役割は極めて大きいものがあると考える。

(〒870 大分市荷揚町2-31 大分市教育委員会社会教育課長)



理事
定 宗 仁

現今ほど精神文化の大切さを痛感する時はない。特に若い世代(中・高校生)の芸術文化に対する関心を高めるための取り組みが、是非とも必要な感じがする。

芸振に期待し、微力ながらお手伝いしたい。

(〒870 大分市牧緑町1-16 大分県芸術会館副館長)

平成3年度 基金事業一覧表

■ 芸振自主事業

区分	月 日	時 間	開催地	会 場	公 演 団 体
ファミリー芸術劇場	9月26日(木)	PM 6:00	耶馬溪町	サニーホール	日本民謡梅幸会
学校巡回公演	7月17日(水)	AM10:15	鶴見町	松浦小学校	大分大学混声合唱団
		PM 2:00	鶴見町	吹小学校	〃
	8月16日(金) ~18日(日)		佐伯市	佐伯市勤労者福祉センター	大分県美術協会
	8月21日(水)	AM10:30	挾間町	挾間小学校	大分県洋舞踊協会
		PM 1:30	挾間町	谷小学校	〃
	11月24日(日)	PM 1:00	武蔵町	中央公民館	大分マンドリンオーケストラ
12月初旬		国東町	農村改善センター	カサ・デ・ギターラ	
文化キャラバン	8月6日(火)	PM 1:00	姫島村	中学校体育館	花の会
	9月5日(木)	PM 6:00	津久見市	津久見市民会館	大分県日本舞踊連盟
	10月26日(土)	PM 6:00	荻町	中央公民館	大分県庁職員吹奏楽団
	10月27日(日)	AM11:00	米水津村	村民センター	日本舞踊若柳流大分県協会

■ 海外派遣事業

氏 名	年齢	推薦団体	職 業	部 門	派遣先	期 間	研修内容
柚野朝男	43	大分県美術協	大分鶴崎高校教	美術(彫刻)	アメリカ	8/2~8/31	アメリカ現代彫刻の様相
清末典子	30	大分県民演劇製作協議会	ピアノ講師	演 劇	ソビエト(レニングラード)	11/6~12/初旬	ソビエト演劇理論
笠木啓子	50	大分県洋舞踊協会	バレエ研究所主任	舞 踊	アメリカソビエト	12月上旬(予定)	外国バレエの研究

■ 団体補助事業

平成3年度団体補助事業として、大分県俳画同好会他52団体に交付する。

県洋舞踊協会の歩み（まとめ）

大分県洋舞踊協会長 杉原昌子

大分県洋舞踊協会が発足して30年を経過した。その時の流れが長かったのか、短いものだったかは別にして、当時の県下に散在する主宰者がよくも「協会」の結成に当って困難な抵抗を感じることもなくスタートできたものだと思う。

洋舞というジャンルの中には当時もクラシックとモダンと、又類似して異なる児童舞踊の主義主張や形式をもつ県下のバレエ分布図だった。この流派を異にしなから、ひたすらに「洋舞を教育」という立場で団結することが出来たのは勇気ある行動だった。

戦後の悪条件は何処も同じである。その中であって、各主宰者は手作りの衣裳を縫いながら発表会を繰返しては、相互批評を通して洋舞の発展にひたすら情熱を傾けてきたように思う。地方の一研究所の偏見や技量の未熟を合同公演の場で補い、そこに留まることなく、地方と中央との舞踊文化の格差を埋めるためにも、積極的に中央の檜舞台に挑戦をくり返してきた。特に笠木、佐藤、後藤の各主宰者のひたむきな創作意欲は、協会員に多大の影響をあたえ推進力ともなってきた。

こうした苦闘の努力は協会の力として吸収されて益々

門弟の教育に実績を挙げてきた。その証しは、現在の洋舞舞界にあって、中央のみならず海外にまで雄飛している県出身のバレリーナたちの姿が如実に物語っている。

協会運営が全て順調であった訳ではない。現在に至るまでなお解決しきれない難問題もいくつか抱えているが文の文化グループと異なる組織構成からの問題であればお互いが厳しい芸術眼と協力の方向さえ失わなければ、きっとよい将来が期待できると信じている。

幸いにも行政・芸術が一体となって文化基金の創設運営にのりだした。この目的は洋舞協会のにとって大きな刺激となった。県下巡回公演の一つをとっても、その事業が、その地域にとって文化の一助となっていることに微力ながら貢献の喜びを感じる。協会の力でなすべきこと、個人の力で出来ること、その調整はお互い協会の中にあつて、常に協調の自己犠牲も覚悟すべきである。

最近、国外へ積極的に舞踊活動の輪が広がられてきた。文化基金が契機でソ連とのバレエ交流が実を結びつつある。いま協会員は、結成当時の心を再確認しながら現実を直視反省を通して、更にその輪を固める努力が要求されているように思う。（〒878 竹田市浦丁）

新 会 員 紹 介

芸術会議は、組織拡充のために会員の加入促進を呼びかけているが、本年度新たに加入承認された会員は次のとおりです。

● 団 体

団体名	事務局所在地	代表者氏名及び住所		事務局長氏名及び住所		団体の目的	会員数	設立年月日	設立後の経過
		氏名	住所	氏名	住所				
大分文化連		三原久正		三宅 清		日本の伝統文化芸術を保持継承し普及発展をはかる明るい社会の建設に寄与する	543名	昭和61年2月	コンパルオーアニングセレブニー園遊会開催、中華民国との文化交流を考える国民集会アドラシニング参加。
日本伝統俳句協会大分県支部		篠原樹風		佐藤富士男		伝統俳句の普及とその発展研究	約100名	昭和62年10月1日	毎年春季研修会及び総会兼句会と講習会開催「句会と講演の会」は県芸術祭協賛行事
ルヴォア吹奏楽団		工藤明美		工藤明美		音楽をとおして大分市民との親睦と団員の技術向上を目的	35名	昭和63年3月1日	S63吹奏楽コンクール県代表で出場、H元/九州大会出場、H元/市民音楽祭出場
米水津村文化協会		水口作馬		谷口守弘		米水津村の文化活動を振興し村民文化向上に寄与するとともに文化団体相互の連携を図ることを目的とする。	200名	平成2年12月20日	組織の確立と活動計画の具体化に取り組んでいる。
おおいたパッチワークキルト協会		小野和子		小野和子		パッチワーク愛好者の連絡及び共同展示会(年1回)を催し、大分県地域文化発展のための協力にあつ。	約300名	平成3年4月1日	おおいたパッチワークフェスティバルを平成3年11月末実行予定。過去の展示会では各自の作品発表の場とし作品の向上に努めた。

● 個 人

番号	氏名	〒	住所	電話番号	所属団体	番号	氏名	〒	住所	電話番号	所属団体
161	大塚 静峰				県美術協会(部) 臼杵市文化連盟	164	須崎 俊郎				県高等学校文化連盟
162	吾妻 実穂					165	河野 公記				県美術協会(部) 県宣伝美術会
163	杉原 昌子				県洋舞踊協会						

事務局だより

故河村溪雲氏・故宮崎豊氏に感謝状贈呈

平成3年度大分県芸術文化振興会議の通常総会が、6月13日(木)午後1時より開催され、故人お二人の御遺徳をしのび、会員を代表して会長より御遺族に感謝状が贈呈された。

柚野氏、海外研修を終え帰国

平成3年度文化基金事業＝海外派遣者の一人柚野氏は、現代美術（彫刻）の本場に行き、多くの成果を得て無事帰国
期間／平成3年8月2日～8月31日(30日間)

テーマ／アメリカ現代彫刻の様相

なお、清末典子氏は11月6日ソビエト（レニングラード）に向けて出発、笠木啓子氏は12月にアメリカ・ソビエトで研修の予定です。

題字にニューウェーブ

平成3年度を区切りとして、新たに機関紙「芸振」の題字を堤碓山先生にお願いいたしました。

前号までの首藤春草先生は、動きのある力強さと躍進を兼ねそなえたものでしたが、堤先生も、芸振の新しい創造と情熱をうかがえる力作です。

本年度芸振役員・事務局員名簿

▶ 役員

役職名	氏名	団体名	役職名	氏名	団体名
名誉会長	挟間 正年		顧問	浜田九一郎	
顧問	河野 彰			野崎 哲	

役職名	氏名	団体名	役職名	氏名	団体名
会長	仲町 謙吉		理事 (団体代表)	中野 幸和	県職場音楽連盟
副会長	脇 正人			糸永 信義	県吹奏楽連盟
	中沢とおる			深田 光霊	日本詩道会
	小長 久子			板井南桜山	萬謡会
監事	日野 正美			花柳昌吉郎	県日本舞踊連盟
	佐藤 朱音			伊坂 香里	県民謡連盟連合会
常任理事	菅 久			杉原 昌子	県洋舞踊協会
	藤原 嘉久			首藤 悦爾	県児童文化研究会
	十時 良			賀来 熙	県民演劇制作協議会
理事 (団体代表)	倉田 紘文			須崎 俊郎	県高等学校文化連盟
	佐藤真砂延	県番傘川柳連合会	理事 (学識経験者)	佐々木均太郎	別府大学教授
	波多野義孝	県宣伝美術協会		狭間 久	大分合同新聞特信局次長
	堤 碓山	県美術協会(書)		尾登 一信	大分市民劇場会長
	大崎 聡明	県美術協会(写)		木村 成敏	県文化団体連絡協議会代表幹事
	脇坂 秀樹	県美術協会(美)	宮瀬香多士		
	山本 勝彦	県音楽協会	理事 (関連行政機関)	内田 悟	大分市教育委員会社会教育課長
梅津百合子	県民オペラ協会	定宗 仁		県芸術会館副館長	
川口 九山	県三曲協会				

▶ 事務局員

役職名	氏名	団体名	役職名	氏名	団体名
事務局長	秋葉 正嗣	県教育庁管理部文化課課長	事務局	今井 義人	県教育庁管理部文化課主幹兼管理係長
事務局次長	林 英輝	県教育庁管理部文化課課長補佐		笹島 豪二	県教育庁管理部文化課文化企画係長
	佐藤 智信	県芸振会議事務局次長		徳谷 晃一	県教育庁管理部文化課文化企画係主任
	日名子金一郎	県美術協会員		森 孝子	県芸振会議事務局書記
	辛島 光義	県音楽協会員			